

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：33401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23560777

研究課題名(和文) 森田慶一と増田友也を中心とした京都学派の建築論に関する基礎的研究

研究課題名(英文) A Study on K.Morita and T.Masuda in Kyoto-School of Architecture

研究代表者

市川 秀和 (Ichikawa, Hidekazu)

福井工業大学・工学部・教授

研究者番号：60293411

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：関西の近代建築史における「京都」の歴史的意義については、極めて独特な建築思想の形成と系譜が創り出されてきたと考えられる。この報告では、戦前の京都帝国大学から戦後の新制京都大学へと至る歴史の変遷での建築学科(意匠系)の知的原風景に着目した。

大正9年に創設された京都帝国大学建築学科では、主任教授・武田五一を中心に、学問的自由と個性豊かな創造を尊重した学風が強く育まれ、武田の後を担った森田慶一、そして増田友也へと受け継がれた。この森田と増田を中心に展開した建築論研究を「京都学派の建築論」と総称するなら、それは如何にして形成されたのか。本報告書は、かかる問題視に基づいた基礎的研究の成果である。

研究成果の概要(英文)：This report is a study on K.Morita and T.Masuda in Kyoto-School of Architecture. Morita and Masuda were professor architects in Kyoto university.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史

キーワード：京都学派 建築論 武田五一 森田慶一 増田友也 ウィトルウィウス ヴアレリ ハイデッガー

1. 研究開始当初の背景

これまでの日本近代建築史研究において、関東地区に対する関西地区の有する歴史的意義が明らかにされるとともに、一建築家による「スクール」や大学名の「学派」の存在も指摘されてきた。

本研究は、こうした背景のなかで、関西の「京都」に着目し、戦前の京都帝国大学から戦後の京都大学へと継承展開された建築論研究、すなわち「京都学派の建築論」に着目するものである。

2. 研究の目的

戦前の大正期から戦後の昭和期に至るまでの京都大学工学部建築学科の知的原風景に着目し、森田慶一と増田友也を中心とした京都学派の建築論が、如何にして形成されたのか、そして学術的特色や現代的意義は何かをめぐって究明する。

3. 研究の方法

以下の3ヶ年の研究計画・方法を設定した。

■平成23年度(2011)

京都帝国大学建築学科は、大正9年に主任教授の武田五一が中心となって創設された。この武田を始祖として、その後の森田慶一へと展開する知的原風景を究明する。

■平成24年(2012)

森田慶一によるウィトルウィウス建築書の邦訳研究、そしてヴァレリ「エウパリノス」邦訳などが、京都学派の建築論形成に果たした役割や意義を考察する。

■平成25年(2013)

森田の後を引き継ぐ増田友也を取り上げ、その生涯と思索の特色を整理し、そして建築論が学際的に展開する実態を追跡する。最後に3ヶ年の研究成果をまとめる。

4. 研究成果

武田五一が中核となって大正9年に創設した京都帝国大学建築学科の研究教育環境では、学問的自由と個性的創造を尊重した「学風」が生まれ、独特な知的原風景が生み出された。

その武田退官後に、森田慶一と増田友也を中心とした建築論的思索が大きく展開した歴史的経緯を詳しく究明するとともに、森田と増田それぞれの基礎的考察を試みた。

こうして全3ヶ年で得られた研究成果は、1冊の報告書としてまとめ、印刷製本した。その報告書の目次は、次の通りである。



増田友也と森田慶一

森田慶一と増田友也を中心とした京都学派の建築論に関する基礎的研究

目次

はしがき

第1章 「京都学派の建築論」とは何か  
—武田五一と京都帝国大学建築学科の知的原風景から—

第2章 京都学派の建築論の形成と系譜 1  
—森田慶一とウィトルウィウス研究—

第3章 京都学派の建築論の形成と系譜 2  
—戦後建築思潮における増田友也と京都学派の展開—

第4章 森田慶一『建築論』読解への初歩  
—古典の知：ウィトルウィウスとヴァレリの邦訳について—

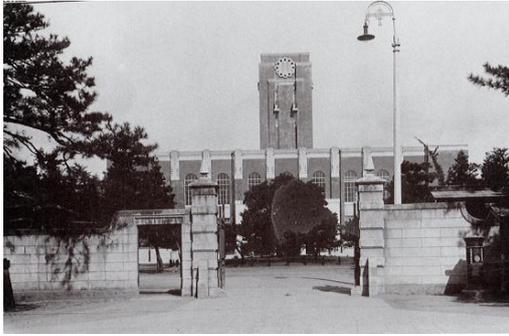
第5章 増田友也の生涯と思索の道  
—基本的な全容理解の試み：空間論から風景論、存在論へ—

付論1 京都大学教養部図学教室と建築論の課題 —人間・空間・幾何学：前川道郎から玉腰芳夫を中心に

付論2 戦後の福井大学と京都学派の地域的展開—森田慶一・増田友也から渡部貞清へ：建築と風景の詩情

付論3 建築論と建築史の対話の場としての「歴史的環境保存論」—稲垣栄三の増田友也追悼講演(1993)から考える

資料 森田慶一・増田友也 著作目録



京都帝国大学 本館 大正 13 年  
武田五一設計



京都帝国大学 建築学教室 大正 11 年  
武田五一設計



武田五一 (1872~1938)



森田慶一 (1895~1983)



増田友也 (1914~1981)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

### ①市川秀和 (2013)

「福井県の歴史的環境の保存と建築論の課題 一渡部貞清の町並み調査と稲垣栄三の増田友也追悼講演から考える」  
福井大学地域環境研究教育センター研究紀要 第 20 号 p63-71

### ②市川秀和 (2013)

「増田友也の思索の道」  
日本建築学会近畿支部研究報告集  
計画系 第 53 号 p905-908

### ③市川秀和 (2012)

「空間現象・Ethnos の風景・建築以前の有時 増田友也の思索の道：空間論から風景論、存在論へ」  
福井大学地域環境研究教育センター研究紀要 第 19 号 p81-91

### ④市川秀和 (2012)

「森田慶一『建築論』の「全一」概念についてーヴァレリ『エウパリノス』との関わり」  
美学 第 241 号 (2012 冬) p117

### ⑤市川秀和 (2012)

「武田五一の建築意匠論とその思想的影響について」  
デザイン理論 第 61 号 p138-139

### ⑥市川秀和 (2012)

「武田五一と京都学派の建築論 (2) 構造について」  
日本建築学会近畿支部研究報告集  
計画系 第 53 号 p813-816

### ⑦市川秀和 (2011)

「武田五一と京都学派の建築論」  
日本建築学会近畿支部研究報告集  
計画系 第 52 号 p785-788

[学会発表] (計 8 件)

### ①市川秀和 (2014)

「建築論と建築史の対話の場としての「歴史的環境保全論」  
建築史学会大会 研究発表  
2014. 4. 19. 於：京都工芸繊維大学

- ②市川秀和 (2013)  
「渡部貞清の建築論・風景論」  
日本建築学会北陸支部福井支所主催  
「福井の地から建築史・建築論を考える  
－森田慶一『西洋建築史概説』  
刊行50年を記念して」  
2013. 11. 10. 於：福井市アオッサ
- ③市川秀和 (2013)  
「増田友也の思索の道」  
日本建築学会近畿支部大会研究発表  
2013. 6. 16. 於：大阪工業技術専門学校
- ④市川秀和 (2012)  
「森田慶一『建築論』の「全一」概念について－ヴァレリ『エウパリノス』との関わり」  
美学大会研究発表  
2012. 10. 6. 於：京都大学
- ⑤市川秀和 (2012)  
「武田五一の建築意匠論とその思想的影について」  
意匠学会大会研究発表  
2012. 7. 12. 於：京都工芸繊維大学
- ⑥市川秀和 (2012)  
「武田五一と京都学派の建築論  
(2) 構造について」  
日本建築学会近畿支部大会研究発表  
2012. 6. 17. 於：大阪工業技術専門学校
- ⑦市川秀和 (2011)  
「武田五一と京都学派の建築論」  
日本建築学会近畿支部大会研究発表  
2011. 6. 18 於：大阪工業技術専門学校
- ⑧市川秀和 (2011)  
「森田慶一『建築論』読解への初歩」  
建築史学会大会研究発表  
2011. 4. 21 於：東京藝術大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

市川 秀和 (ICHIKAWA, Hidekazu)  
福井工業大学・工学部・教授  
研究者番号：60293411